

**地域の経済動向(令和5年4~6月期)**  
**《道央(空知・石狩・後志・胆振・日高)地域》**

**1 経済動向に係る企業等の声(4~6月期)**

**【建設業】**

- ・ 売上、利益は前年度より高くなっており、一時期ウッドショックによる木材不足が問題となっていたが、現在は解消されている。(総合工事業)
- ・ 主に公共工事に伴うゼネコン等からの受注によって順調に売上を伸ばしている。また、UAV 写真三次元測量のニーズは高まっており、今後も受注増加を期待できる。(総合工事業)
- ・ 協会の会員企業でここ数年、倒産等はない。原材料価格は上がっているが、コロナ禍と比べると、原材料の仕入れに関する納期の遅れはない。(建設業協会)
- ・ 建設業者、特に設備業者からは、住宅設備の品物が入らない(遅れる)との声がある。(商工会議所)
- ・ 契約後に建設資材や備品等の価格が上昇しており、工事代金に反映できていない。(金融機関)
- ・ 人手不足を補うため ICT を活用し、現場の合理化を行い、生産性を上げている。(建設業協会)

**【製造業】**

- ・ 売上は前年度比2割増で推移。コロナで一番落ち込んだ令和2年と比べると2倍まで戻っている。需要が戻り菓子製造設備の稼働率が上がっているが、それに伴い燃料費もかかることから、燃料費高騰で利益が相殺されている。菓子の主な原材料である小豆は、数年前に冷害で高騰したこともあったが近年は安定しているので、何とかしのいでいる。(食料品製造業)
- ・ 昨年は原材料のうち紙類が4割、薬品が3割上昇したため、販売価格も15%値上げした。電気料金やA重油(暖房用)の高騰も負担になっている。また過去20年をみると、商業印刷物の需要は4割減だが事業者数は半分になっており、1社あたりの売上は微増。今後は顧客の広報部門を担うつもりで企画型の営業活動をしていかなければ生き残れないと考えているが、当面の半年くらいはインバウンド関連業務の回復もあり、安定した市場になると想定している。(印刷業)
- ・ 近年の出荷額は1~2%増で推移していたが、コロナの行動制限緩和でインターネット通信販売の需要が落ち着いたことから伸び悩んでいる。またダンボールの原材料となる古紙は国内で不足しており、生産拡大の制約となっている。(パルプ・紙・紙加工品製造業)
- ・ スマートフォンなどに搭載される結晶材を製造しているが、スマートフォン端末は、需要の低迷や中国経済の後退などにより世界的に出荷台数が落ち込み、メーカーが在庫調整を行っており、市場の回復に時間がかかっている。(電子部品・デバイス・電子回路製造業)
- ・ 昨年はウクライナ情勢の影響で市場に魚が出回っていなかったが、今年は出回っており、大手スーパーや百貨店によるギフト企画で用意できる商品数を確保出来ると予想しているが、物価高騰の影響により、商品の価格を高くしなければならず、提案した価格を大手スーパーや百貨店が承諾してくれるか否かが懸念。(水産物加工業)
- ・ 鮭やニシンの水揚げが落ちなかったため、原材料も確保できている。ホタテなどは不漁で原価が高くなっている。利益が出ない商品は製造を控えるなどしている。(水産加工業)
- ・ 冷凍食品は業務用・家庭用ともに受注は堅調に推移している。売り上げは堅調だが、エネルギーや原材料の高騰で利益が圧迫されている。(食料品製造業)
- ・ 原材料等の高騰の分を思い通り(全て)価格転嫁できてはいない。(食料品製造業)
- ・ 売上は変わらないが、原材料費の高騰で昨年と比べると2割程度利益が下がっている。宅配牛乳の値上げに伴い、契約を辞めた人もいるが、大方理解してもらっている。(食料品製造業)

**【卸売・小売業】**

- ・ コロナの行動制限緩和により、旅行やレジャーなどの消費が増えたことや、物価高騰の影響もあり、消費者の買い控えが見受けられる。そのため、購入される商品が減少し売り上げが縮小している。また取引規模が年々縮小傾向にあり、相対売りで過不足なく販売しているが、売り上げになかなか繋がらない。(卸売業)

## 【運輸業】

- ・ 売上はコロナ前の水準まで戻っておらず、6割程度で、コロナにより一時的に釣りをする人が増えたが、コロナ回復後は、釣りを辞めてしまう方が多い印象。船のクルージングは天候に左右されるが、出航できない際の代替プランが現状ない。（水運業）
- ・ コロナ行動制限緩和で荷動きが戻ってきており、畜産原料、業務用商材の入庫・在庫が増加。全体的に取扱いが増加傾向。（道路貨物運送業）
- ・ これから夏季に向けてアイスクリーム、コンビニカウンター商材取扱い増加、売上前年比増の見込。（道路貨物運送業）

## 【サービス業】

- ・ 団体旅行の予約は、コロナ禍前には届かないものの徐々に増加している。（旅行業）
- ・ 観光タクシーは8月から開始予定であるが、既に予約の問い合わせが来ている。また、リピート客もいる。（旅行業）
- ・ 赤潮の影響を受けたウニ等は、赤潮前の状況に戻っていない。コロナ前に例年開催していたウニ祭りは今年度も中止した。（商工会）
- ・ 赤潮でウニが出せなくなり、レストランの売り上げは半分くらいになってしまった。（宿泊業）
- ・ HOKKAIDO LOVE 割は全体の2割程度で、リピーターが大半。問い合わせは多いが、ステイナビの登録の煩雑さにより、問い合わせがあった方の半分は使用を断念している。（宿泊業）
- ・ リニューアルオープン後は、コロナ禍前の9割程度まで来客数が回復した。外国人は、全体の1割程度であり、台湾や韓国からの団体客が来ている。夏には広場でダンスイベントの開催や、キッチンカーの出店を行う予定であり、来客数は増加すると期待している。（道の駅）
- ・ コロナ禍では野菜目当てでスーパー代わりとして道の駅を利用する客が多かったが、近頃はお土産の売上が伸びたことから、観光客が増えてきたように感じる。夏にかけて多くの果物や野菜が入ってくるため、更に売上は増加すると期待している。（道の駅）
- ・ 飲食店の売上は、昼がメインの店はコロナ前と同程度まで、夜がメインの店は7割程度まで回復してきている。コロナ禍で惣菜や出前を始めた店と、何もしてこなかった店の売上に差が生じてきている。（商工会議所）
- ・ 食事のみの客が多く、団体での利用はほぼ無いため、売上が上がらない。（商工会）
- ・ コロナ前は慣例として行われていた飲み会が、コロナ行動制限緩和後は行われず、今後の先行きは不透明である。（商工会）
- ・ 材料、資材など仕入れの値段の上昇により、一律値段を上げたものの、値上がり分全てを価格転嫁できていないため、利益は少なくなっている。（飲食業）
- ・ 原材料の高騰により4月から宿泊料金を値上げ、5月からレストランメニューを値上げした。（宿泊業）
- ・ 一部の飲食店ではオオズワイガニが大量にとれていることからメニューに取り入れる動きもある。（商工会）
- ・ 鳥インフルエンザの影響により小売店や飲食店で卵の仕入れが不足している。仕入れできても販売価格の高騰が続いている。（商工会）
- ・ クリーニング業で、一般客の扱いがなく、宿泊施設のリネンを受注しているが、コロナ禍で観光宿泊需要が減り影響を受けた。現在は回復しているが、コロナ前までには至っていない。  
また、重油やハンガー、洗剤など使用するものは全て価格があがっているので、大変厳しく、年契約の更新の際に価格転嫁しているが、値上がり分の半分程度しか吸収できていない。（洗濯業）
- ・ 既存事業での需要回復に加え、新規事業の白衣のレンタル事も好調であることから、今後も売上は伸びると予想している。（洗濯業）

## 【関係機関・団体】

- ・ コロナ禍で、飲食店などの業務用LPガスの使用量は減少したが、一般家庭の使用量が増加したため、タクシー用のLPガスを除いて全体的に大きな減少はなかった。また北電の電気料金値上げにより、オール電化住宅からLPガス利用に切り替える動きが出てきている。(LPガス協会)
- ・ 価格転嫁の動向 について、「発注側に協議を申し込み話し合いに応じてもらった」は6割強で、「コスト上昇分の取引価格反映について協議を申し込まれた」を合わせると、7割以上は価格協議を実施している。コスト増加分の価格転嫁について、4割以上の価格転嫁が実施できた企業は約5割で、価格転嫁も一定程度進捗しているものの、企業からは上昇が続くコストに対して価格転嫁が追いついていないとの声も聞かれた。(札幌商工会議所)
- ・ 令和4年度に正社員の所定内賃金の引き上げを実施した企業は7割強となった。(札幌商工会議所)
- ・ 事業承継について考えている事業者が多く、事業承継についてのフォーラムを開催したときは100人ほど参加した。(商工会議所)
- ・ コロナ融資は約8割が返済開始。現時点で、返済が困難なため元金据え置き等の条件変更対応先が数件あるが、今後は増加していくことが予想される。(金融機関)
- ・ 次世代半導体工場の千歳市進出に伴い、電気工事請負の話が打診されている町内業者があるなど、今後、経済効果を期待している。(商工会)

## 2 道内金融機関から見た地域景況感(4～6月期)

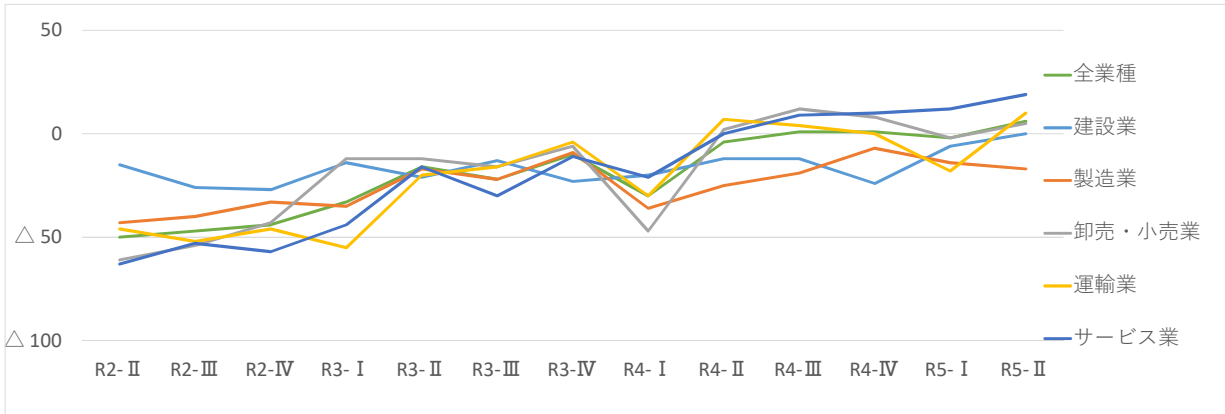
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

### 【直近の景況感】

	現在の景況感			判断理由	方向感	次期見通し 判断理由
	総合	生産動向	消費動向			
北海道信用金庫				今期の景気動向調査では、卸売業・サービス業で「やや低調」となったが、製造業・小売業・不動産で「普通」、建設業で「やや好調」となり、全体の業況判断DIが3.2となっていることから「普通」と判断した。		次期の業況見通しは、製造業・卸売業・小売業・サービス業で「普通」、建設業・不動産で「好調」となり、全体の業況判断DIが10.3の「やや好調」となっていることから、現在の景況感「普通」から上昇傾向と判断した。
空知信用金庫				今期の業況判断指数(DI)は、△4.2と前期(1月～3月)より12.9ポイント改善した。マイナス圏内は14期連続となったが、マイナスを脱するまでもう一步のところまで来ている。業種別に見ると運輸業のみ悪化し、残り7業種は改善あるいは横這いとなった。売上額は9.5と前期比9ポイント改善したが、業種間でバラツキが見られ、卸売業と不動産業では10ポイント以上悪化した。収益DIは△4.2と前期比15.5ポイント改善し、不動産業のみが悪化となった。		次期の予想業況判断指数(DI)は△2.7と前期実績比1.5ポイントと小幅ではあるものの改善が見込まれる。業種別では、製造業とサービス業及び不動産業の3業種で悪化の見通しだが、その他の業種は改善あるいは横這いの見通し。明るい兆しはあるが、引き続き人手不足や燃料価格の高止まりに下振れリスクが懸念される。
北空知信用金庫				当金庫の景気動向調査によると、食品関連の卸・小売業、製造業、建設業などは改善がみられるが衣料類の卸・小売業、サービス業では依然と後退感が強い。また、燃料価格の高止まりから原材料の高騰は続いており、収益性への影響から経済活動への積極性や活性化に至っていない。したがって、前期と同様の「やや低調」と判断した。		同調査によると、食品関連の卸・小売業は改善が見込まれる中、製造業は横ばいと見込み、建設業・サービス業は悪化すると見込んでいる。全体的なDIも7.1ポイント悪化する見通しであり、「下降傾向」と判断した。
北門信用金庫				売上額・収益判断DIは上昇、仕入価格判断DIはわずかに下降したが依然高止まりし、業況としては改善したものの小幅であり、「やや低調」と判断。製造業で業況がやや改善したがマイナス判断で推移していることから、生産動向については「やや低調」と判断。消費動向については、小売業で改善したもののサービス業で悪化しており、「やや低調」と判断。		売上額・収益判断DIがプラス判断へ転じ、業況は前期よりやや改善する見通し。生産動向は製造業で業況が悪化、消費動向については小売業でほぼ横這い、サービス業でやや悪化の見通し。
伊達信用金庫				サービス業については、人手不足により収容客数の拡大、回復に苦慮している状況であり、製造業は、新型コロナウイルス関連の影響も薄れ、売上は増加傾向にあるものの、原材料高に伴う利幅の減少に苦慮している。建設業においては、公共工事や大口工事の受注も増加しており、不動産業も例年並みの仲介、管理料を得ていることから、前期同様「普通」と判断した。		新型コロナウイルス関連の影響は落ち着きを見せ始め、イベントや観光客は増加傾向であり、回復の兆しは見られるが、原材料等の高騰による収益圧迫要因は続くとの見通しが多かったことから、総体では「変わらない」と判断した。
苫小牧信用金庫				今期の景気動向調査によると、業況判断指数は「良い」とする企業16.0%に対して、「悪い」とする企業は36.8%、DIは前期から10.0ポイント改善し△20.8。業種別に見ると、卸売業・サービス業・製造業で前期比大きく改善したものの、小売業では物価高騰の影響もあり前期比後退となった。このような状況から景況感の総合評価は「やや低調」、生産動向は「普通」、消費動向は「やや低調」と判断した。		同調査によると、次期については「良い」とする企業17.2%に対して、「悪い」とする企業は32.8%、DIは△15.6。今期実績に比べ5.2ポイント改善の見通し。業種別に見ると、建設業・運輸業は改善見通しとなったが、その他の業種はすべて後退見通しにあることから、前回同様「変わらない」と判断した。



### 3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I	R5-II
全業種	△ 50	△ 47	△ 44	△ 33	△ 16	△ 22	△ 10	△ 30	△ 4	1	1	△ 2	6
建設業	△ 15	△ 26	△ 27	△ 14	△ 21	△ 13	△ 23	△ 20	△ 12	△ 12	△ 24	△ 6	0
製造業	△ 43	△ 40	△ 33	△ 35	△ 17	△ 22	△ 9	△ 36	△ 25	△ 19	△ 7	△ 14	△ 17
卸売・小売業	△ 61	△ 54	△ 43	△ 12	△ 12	△ 16	△ 6	△ 47	2	12	8	△ 2	5
運輸業	△ 46	△ 52	△ 46	△ 55	△ 20	△ 16	△ 4	△ 30	7	4	0	△ 18	10
サービス業	△ 63	△ 53	△ 57	△ 44	△ 16	△ 30	△ 11	△ 21	0	9	10	12	19

### 4 各種経済指標

